

1973年8月採集の新鮮度が低いカラスシジミ標本が初めて出会った個体で、家族で妙高笹ヶ峰を訪れたとき、草原で休憩している目の前を風に流されるように飛ぶ褐色のチョウを、なんだろうと思いながらネットインしたものだ。後翅裏面のオレンジ紋が鮮やかで、白い帯状紋がW字様となっているところから、近縁のミヤマカラスシジミと区別できる。



Aug.9,1973 妙高笹ヶ峰

2000年7月13日 北海道丸瀬布武利川林道

「みどりの森公園」には蒸気機関車に乗って走れるサービスもあるようで、まだ開園していない時間帯のはずなのに機関車はすでに蒸気をはいている。とても遊んでいる時間はないのでやり過ごす。さらに下る途中左手に民家があってルピナスの花がたくさん咲いた広場もある地点で妻が休憩したいと車を止める。ネットを片手に道路沿いをチェックして紫のクサフジの花が咲く叢でヒメシジミを採る。ホソバヒョウモン、エゾシロチョウ、エゾスジグロシロチョウなどが飛び、ゼフィルスもいそうな環境だけどチョウはみえない。ルピナスの花畑にもどると点在するヒヨドリバナの白い花にギンボシヒョウモンが多い。新鮮体なら採ろうかと近寄るとカラスシジミも訪れている。



July 13,2000 武利川林道

これなら Video にも記録できそうだと車へと走りもどる。ファインダーに裏面のオレンジ模様があざやかに写し込まれる。わずかに尾状突起の一部が汚損しているが、花を訪れた姿を目にするのは初めてのカラスシジミでありネットにも納める。ギンボシヒョウモンも新鮮個体を採って休憩タイムは終わり。本命のオオイ

チモンジとの出会いを期待して先を急ぐ。

2007年7月のウスイロヒョウモンモドキ観察会当日、観察力のするどい参加メンバーは兵庫では珍しいカラスシジミをしっかりと撮影記録されたようだが、一般参加者へのウラギンヒョウモン説明などに気遣っているあいだにチャンスを逸してしまう。

90722(火) 開田高原

柵の中は白樺林が奥につらなる広い草原で、柵にそって馬の散歩道だろうか、歩ける部分があるので奥へとたどってみる。左側に谷様に切れ込む斜面があるところに、ヒメジョオンの群落があり、かなり下方の位置にコヒョウモンが2頭蜜を求めて飛来している。道から斜面へと少しだけ踏み込めばネットがなんとか届くのでこのチョウたちを捕獲したそのとき、ミヤマカラスシジミがすぐその横のヒメジョオンにとまる。なんとかネットが届き、コヒョウモンが入ったままのネットでこの蝶も採る。先ほど畑のそばでみた個体よりははるかに新鮮で、翅表はカラスという命名どおり黒褐色だけでお世辞にもきれいとはいえないが、裏面は独特の白い筋模様と尾状突起根元の赤い紋が褐色の地色に映えるきれいなシジミチョウである。



July 22, 2009 開田高原 ミヤマカラスシジミ